

新美術館の運営方針

(案)



桑原 巨守 作《讃太陽》
1983年 高さ237.5cm

浜川市美術館・桑原巨守彫刻美術館
〔浜川市 教育部 美術館〕

令和5(2023)年 ○月

新美術館の運営方針（案）

1 策定の背景

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館（以下「美術館」という。）は、平成12(2000)年12月、中心市街地に民間施設を活用して開設しました。その後20年が経過し、施設の賃貸借契約期間が満了となることに伴い、令和2(2020)年「あり方検討委員会」を設置し、「市民アンケート」を実施して、今後の運営について検討しました。その後、アンケートの結果や美術館利用者の声等を踏まえ、美術館は渋川市役所第二庁舎（以下「第二庁舎」という。）1階の「もみじサロン」と「もみじテラス」に移転することを決定しました。

第二庁舎は中心市街地にあり、JR渋川駅からも徒歩圏内です。渋川駅から伊香保温泉間のバス路線上でもあり、高速道路のインターチェンジからも近いことから、多くの観光客が立ち寄りやすい場所であると考えます。また、公民館や保健センターが併設されている複合施設であるため、美術館を訪れることが目的ではなかった人にも、美術に触れる機会を提供することができます。

この度の移転を、美術館発展のための好機と捉え、「芸術の森構想」の理念や「開設当初の特色」を継承しつつ、より市民に開かれた、より身近な存在となる美術館とするため、新たなコンセプトによる新たな美術館の運営方針を策定するものです。

沿 革	
S61(1986). 1	「芸術の森構想」策定
S62(1987). 7	桑原巨守氏の《讃太陽》を平沢川橋広場に設置(氏の自然賛美の作風と市の自然環境を活かしたまちづくりの政策が一致)
H12(2000). 2	桑原綾子夫人と桑原巨守氏作品の寄付契約を締結
10	群馬銀行と美術館賃貸借契約についての協議(店舗空きスペースを借用)
12	渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館開館
H13(2001). 3	群馬銀行と美術館の賃貸借契約を締結(期間: H13. 4. 1~H32. 9. 30)
H25(2013). 9	渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館の将来構想策定
R 2(2020). 7~12	渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館あり方検討委員会(全3回)
8	市民アンケート実施
9	群馬銀行と美術館の賃貸借契約を延長(期間: R2. 10. 1~R3. 9. 30)
R 3(2021). 2	渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館あり方検討委員会が提言書を提出
4	美術館第二庁舎への移転決定
9	群馬銀行と美術館の賃貸借契約を延長(期間: R3. 10. 1~R4. 9. 30)
R 4(2022). 9	群馬銀行の原状回復工事完了し、返還
10	新美術館準備室設置
R 5(2023). 6	移転工事着工
R 6(2024). 3	開館(予定)

2 これまでの美術館の取組

(1) 芸術の森構想

渋川市は、昭和61(1986)年1月に策定した「芸術の森構想」を主軸とし、市全体を「芸術の森」に見立て、昭和62(1987)年度から平成5(1993)年度に、市内の公共施設や中心市街地などに野外彫刻を設置し、芸術作品が日常の一部として存在する文化の香り高いまちづくりを推進してきました。

(2) 渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館は、平成12(2000)年12月2日、「民間施設を活用した銀行店舗と同居する美術館」として、中心市街地である現在の新町五差路北西の、群馬銀行旧渋川支店の中に開設しました。開設当時は「街中のオアシス“街角美術館”」といったコンセプトを掲げ、「芸術の森構想」の拠点施設として、全国的にも珍しい県内初の「彫刻作品を常設展示する公立美術館」として歩み始めました。

常設展示室では、北毛出身の具象彫刻家・桑原巨守^{くわはらひろもり}の作品を紹介しました。作家が制作理念に掲げたテーマ“自然讃美”が渋川市の豊かな自然環境とも相まって、多くの市民に“心のゆとり”をもたらし、“潤い”の場となりました。

企画展示室は、市民ギャラリーとしても活用することとし、企画展示の場としてだけではなく、“一般市民も展示できる場”として運営してきました。

常設展示は、何度も美術館に足を運んでいただけるよう、定期的に展示作品の入替えを行いました。企画展示は興味深く観覧していただけるよう、地域にゆかりのある作家や現代社会に息づく革新的な作家の作品などを展示してきました。

また、展示室内においては、作品とともに楽しむコンサートの開催や、体験を通じて楽しむワークショップの開催など、美術を鑑賞するだけでなく、様々な角度から美術に触れることができるよう機会を提供してきました。

—— 芸術の森構想 基本理念（昭和61年1月策定）より ——

この地域のもつ自然、まちづくりの主体である市民、その市民の中で高まりつつある芸術文化活動への欲求、これらの要素が互いに絡み合い連携し合いながらつくりあげられていくもの、それが芸術の森です。

この構想は、総合公園を自然と調和した中で、芸術の香りあふれ、市民が自らつくり、育てる森とするものであり、さらにこの理念が総合公園を拠点とし、市全域に及ぶことを目的とするものです。

3 新美術館の使命と役割

現在の日本社会は、新型コロナウイルス感染症の影響で顕著となった人間関係の希薄化や、緊迫した世界情勢等により、日々の生活における不安や閉塞感が重く立ちこめています。そうした中でも、より文化的に、前向きに生きるために、美術が果たす役割は、非常に大きなものがあると考えます。

美術の鑑賞は、作品と共存し、他者と共感し、主観的な感覚から客観性を養い、「想像力と精神の均衡」を育みます。また、未来の宝である子どもたちの「心の豊かさや強さ」は「美しさを感じること」から、「思考力・発想力・想像力」は「作品を創作すること」から育まれます。近年では、企業等において「アート思考」を学ぶための研修を行う例も増えています。

新美術館の使命は、美術を通して人と人とのつながりを広げ、市民らがより文化的に、前向きに生きるための力を呼び起こすことです。

そのために、次のような取組を拡充します。

- ・市民らが美術に触れ、参加するきっかけとなるワークショップ
- ・作家と市民らをつなげる渋川をテーマとした企画展示
- ・ジャンルにとらわれない企画や発表など
- ・手で触れて作品鑑賞ができる展示

多様化する現代社会において、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きと人生を送ることができる「共生社会」の実現のためにも、美術を通じて「心のゆとり」を持ち、好奇心や想像力を働かせ、他者と積極的に関わろうとする「心の強さ」を育む機会を提供することが重要であると考えます。

「芸術の森構想」により市内には数多くの屋外彫刻が展示されています。それらの作品群ともつながりを広げ、市内全域を明るく開放的な“あおぞら”に見立て、新美術館はその拠点となることをイメージしています。

美術を楽しむことを通して、市民らが垣根のない“あおぞら”のもと、いつでもどこでも誰でも「つながり ひろがる あおぞら美術館」。

「芸術の森」から空を見上げ、市民らが未来に向かって前向きな気持ちで日々の生活を送ることができるよう、新美術館は、つながりひろがる芸術文化活動の拠点としての役割を担い、市民の誇りとなるような施設を目指します。

新美術館のキャッチフレーズ「つながり ひろがる あおぞら美術館」

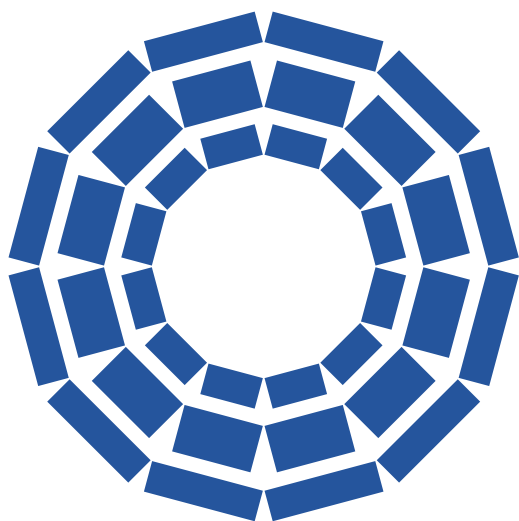
つながり・・・人と人、人と作品、人と作家、人と地域、人と自然、人と社会

ひろがる・・・豊かさ、生活、希望、夢、未来、地域文化、伝統文化、芸術文化

あおぞら・・・晴れやか、解き放たれた、垣根のない、深呼吸、手を伸ばす、澄み渡る



市民の誇り、一歩踏み出す力強さ、やすらぎ



つながり
ひろがる
あおぞら 美術館

